小さいときから本を読む楽しさを知っていることは、子どもが大きくなるためにとても大切なことです。
「こどもの読書週間」（4月23日～5月12日）は、大人が本を子どもに手わたす週間でもあります。

Hospital Topics

問　市立病院　TEL82－２１５１

～診療体制が変わりました～

■小児科の診療時間外受入れについて

今年度も4月から半年間、和歌山県立医科大学より常勤小児科医を派遣していただけることになりました。これに伴い、小児科の診療時間外受入れを9月30日（土）までの期間、対応させていただきます。曜日により小児科医が不在の場合もありますので、時間外の受入れについては事前にお問合せください。

■産婦人科外来

4月より、産婦人科常勤医として黒瀬高明医師が着任され、分娩の再開準備を行っていくとともに、月・木・金曜日の産婦人科外来を担当します。

なお、火・水曜日の県立医科大学の医師による外来診察はこれまでどおり行います。

※火曜日の外来診察は女性医師が担当しています。

■白内障手術月2回実施

4月より、日帰り入院白内障の手術日が第1木曜日と第3木曜日になります。白内障手術の申込みには、まず眼科外来を受診してください。

また、手術日でも眼科外来は、通常どおり診察を行います。

問　市立病院（総合受付）

※その他の診療スケジュールにも変更がありますので、詳細は病院ホームページをご覧ください。

図書館だより

☆いろいろかいてみよう！おえかき絵本☆

日時／４月22日（土）午後１時30分～
場所／文化福祉センター３階　和室
内容／読み聞かせ
　　えほんをつくろう！
※お絵描きができるお子さんならどなたでもどうぞ♪
定員／20名
申込／４月12日（水）午前９時30分～

☆　新　着　図　書　☆

『翼がなくても』中山七里／著　双葉社

陸上200m走でオリンピックを狙う沙良は、幼馴染の泰輔が起こした交通事故で左足を切断してしまう。憎悪とやりきれなさで苦しむ最中、泰輔が何者かに殺害されてしまう。切なさあふれる傑作長編ミステリー。

問　図書館　TEL82－３２２０

無料そうだん

■市民法律相談　※予約制
日時　4/18(火)・5/16(火)
　　午後1時～4時20分
場所　市役所3階会議室
　※弁護士は月替わり
　※定員10名
問　市民課（内線244）

■合同相談
日時　4/13(木)・5/11(木)
　　午後1時30分～4時
場所　文化福祉センター
行政相談委員：石井志通男
　　吉川かよ子
人権擁護委員：
（4月）堤敬明・橋本訓祐
（5月）栗山勝典・濵部忠男
問　市民課（内線244・368）

■教育相談
日時　平日　午前9時～
場所・問　教育委員会
　　（内線512）

■青少年センター
日時　平日 午前8時30分～
場所・問　青少年センター
　　TEL0120-783-782
　　TEL82-3591

■家庭児童相談
日時　月～木　※平日のみ
　　午前9時～午後4時
場所・問
　家庭児童青少年相談室
　TEL82-3711

■消費生活相談
日時　毎週月曜 ※平日のみ
　　午後1時～4時
場所　市役所2階人権相談室
※電話相談も可
問　産業振興課 TEL83-0225

広告

龍谷大学生 持ち込み企画

有田市 魅力発見プロジェクト　最終回

有田での一年

◆上京（都）、そして帰郷

1月、私たち深尾ゼミは学校内で有田みかんを販売する「有田みかんプロジェクト」を成功させた。その時、1人の学生が話しかけてくれた。名前は垣内さん。有田市出身とのことだった。私は学校内で初めて有田市出身の方と出会うことができ、後日、有田市のことについてお話を伺うことができた。

垣内さんは今年の3月に大学を卒業。4月から有田市に帰り、和歌山市内で働き始めるそうだ。京都にある龍谷大学に通っていた理由は「ただただ京都に行きたかった」からだという。そんな垣内さんも、春からはまた有田市民だ。有田市は帰りたくなる場所だと語っていた。

◆有田市の人たち

垣内さんに有田市のいいところはどこですか?と聞いたところ「有田にはなんもないよ」と言いつつも、たくさんの有田ストーリーを語ってくれた。景色が綺麗なこと、蒲鉾が美味しいこと、太刀魚の刺身が美味しいこと。それはどれもこの1年、有田市を訪れるたびに私たちも感じた魅力だ。

有田市民の方に話を聞くと決まって「有田には何もないよ」と言ってから話が始まる。そして話が始まるとどまる事がない。「良いとこたくさんあるじゃないですか」と何度も心の中で思っていた。そして、みなさん楽しそうに話すのだ。するとこちらまで楽しくなってきて、会話がはずむ。これまで有田市を想う人たちとたくさんの言葉を交わしてきた。

昨年の4月、魅力発見プロジェクトが始まってから、有田市の様々な場所に訪れたり、いくつかのイベントに参加したりと有田市のことをたくさん知ることができた。また同時に、有田市の方々についても知ることができたように思う。心が温かいこと、おおらかであること。謙虚に見えて本当は有田市のことが大好きなこと。みなさん仲が良いこと。そんな有田市のみなさんのことが私たちは大好きになっていた。有田市は私たちにとって、帰りたくなる場所のひとつとなった。

本当に1年間お世話になりました。ありがとうございました。

広告